

TSTiAニュース

2019年4月

春号

vol.52

TSTiA

Tohoku・Hokkaido Surface Treatment Industry Association

ニュース



東北・北海道表面処理工業組合

待ち望む春

東北・北海道表面処理工業組合
理事 中島 功嗣

東北・北海道表面処理工業組合の理事を務めさせて頂いております、メテック株式会社北海工場の中島功嗣で御座います。組合員の皆様には日頃より御愛顧賜り心より感謝申し上げます。

弊社は北海道恵庭市に工場があり、新千歳空港より車で約20分程度の場所です。冬期はまあまあ降雪がありますが、道内では比較的降雪の少ない地域であります。しかしながら時にはブラックアイスバーンと言われる路面状況悪化で自動車運転時には気を使う場合もございます。特に朝晩の凍結時混雑時は結構大きな自動車事故を頻繁に見かけますので、皆様も北海道冬期運転の際には十二分注意をされた方が良いでしょう。

さて最近の状況としましては、弊社は自動車関連の鍍金が大半であり、昨年末より主に中国経済の失速起因に由る自動車販売低下影響にて受注が落ち込んでおり、大変厳しい状況下にあります。月中の数日間は全日工場稼働停止実施等々、工場経費抑制策を実施しております。今は辛抱我慢の時期であり、厳しい冬が去り雪溶けて春になり温かくなるが如く一日も早い客先受注回復を願っております。

また2月21日21時22分には胆振中東部地震余震が発生し、震源地厚真町は震度6恵庭市は震度4でした。私は地震時には帰宅していましたが、昨年9月以来の大きな地震発生であり、もしや？と少々慌てましたが、工場・従業員とも被害損傷はなく安堵いたしました。天災は予測不可能であります、仮に被害を受けても自己で復旧可能な場合は一日も早く復旧活動を実施し、お客様にご迷惑が掛からぬように対処致します。

辛気臭い話ばかり申し上げましたが、止まない雨は無い！明けない夜は無い！と前向きに考えている次第であります。

最後になりますが、組合員の皆様と共に業界の発展に寄与出来ればと思っておりますので、今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

報 告

新春賀詞交歓会

恒例となりました平成 31 年新春賀詞交歓会を 1 月 23 日（水）ホテル法華クラブ仙台において講演会、賀詞交歓会を行いました。始めに開会の辞を岡崎副理事長が行い、講演会は東北大学准教授戸津健太郎様が行い、意義のある新春賀詞交歓会となりました。



来賓として東北経済産業局のご臨席を賜り、会員、賛助会員 74 名が出席されて盛大に開催されました。

賀詞交歓会は主催者代表として島田理事長が行い、ご来賓として東北経済産業局地域経済部長 蘆田和也様にご祝辞を賜りました。参加者はそれぞれ情報交換を行い草間副理事長の手締めでお開きとなりました。

司会を担当した中島理事により講演会から始まりました。

開会の辞:岡崎副理事長

■講演会(午後 4 時 30 分)

演題「A I、I o T を活用したものづくり」

講演者：戸津健太郎様（東北大学准教授）



最近新聞やニュースでよく耳にする A I、I o T についてご講演をいただきました。

戸津先生のご専門はセンサー等の微細加工です。特に I o T に使われる微細加工が中心です。

- ・ A I、I o T の用語
- ・ A I、I o T とは
- ・ 各メーカーでの利用状況（Amazon、東芝、日立、IBM、富士通等）
- ・ 医療分野での活用（自治医大）
- ・ 活用例（日立、旭鉄工、）
- ・ 秋葉原で安価な入手可能なセンサー等
- ・ スマートホテルでの活用・消費電量等の見える化・製造現場における AI, IOT 活用例
- ・ A I、I o T 導入のポイント ・ I o T の要、センサーとは



■ 賀詞交歓会 (午後 5 時 50 分)

椎谷監事の司会進行により賀詞交歓会は始まりました。

主催者挨拶、ご来賓祝辞、乾杯と進み交歓会は始まりました。

● 主催者挨拶 島田理事長



皆様新年あけましておめでとうございます。本日はお忙しい中、東北経済産業局より蘆田部長様、小日向様、それに先程ご講演をいただきました東北大学准教授戸津様にご来賓をいただいております。TSTIA ニュースでも書きましたが昨年秋の叙勲で東亜電化の三浦社長様が旭日単光章を授与されました。長年にわたる産学官連携の推進、特許出願による有効活用としての貢献ということですので。組合としても名誉な事で心よりお祝い申し上げます。平成最後の年であり 4 月 1 日新元号が発表され 5 月 1 日より新元号が

制定されます。今年は世界の経済が停滞しそうな感じがあります。

また 10 月には消費税の増税があります。実施されれば景気は後退するのではないかと思います。先行きは不透明であります、そこを乗り越えてきたのが私達です。これから頑張っていきたいと思えます。先程、戸津先生のご講演でもありましたが AI, IOT を使った仕事となると思えます。生産管理、システムにつなげ在庫管理等々あらゆる分野に活用され生産性が飛躍的になると思えます。この 10 年で大きく変わったことは世界中で使われたスマートフォンではないかと思います。これからは AI、IOT と繋がっていくと思われまます。これからの 10 年はどうなっていくのか分かりませんが健康問題もありますが AI で優れたロボットがあって色んなことをやってくれることと思えます。また自宅で診察も出来るようになるのではと思えます。飲み過ぎれば AI に叱られるということもあるかも知れません。ともあれ 10 年後は明るい社会になっていると思えます。最後に今年がますます良い年でありますようご祈念いたします。本年もどうぞよろしくお願い致します。

● 来賓祝辞 東北経済産業局地域経済部長 蘆田和也様



新年あけましておめでとうございます。東日本大震災から 7 年 10 カ月が経過しました。復興は着実に進んでおります。感謝申し上げます。経済はアベノミクスの推進により国民総生産が最大規模に拡大しております。東北では自動車、産業改善により設備の増強、大型投資により活発になっています。今年は国内外の情勢は極めて読みにくいと思われています。第 4 次産業革命の変化やソサエティ 5.0 と呼ばれる社会の変化、構造的な変化です。重要なのは足元でしっかりと稼いでいただくことです。将来に向けた取り組みをしっかりとしていただくことです。東北大学との連携により充実した設備等を活用していただきたく思えます。来年度の補正予算では 850 億円の規模を予定しております。IT の活用にも支援をしていきます。AI, IOT のセミナーも開催していきますので積極的にご参加してください。幅広い産業の基盤である表面処理は地域経済の発展に寄与していただきたいと思えます。貴組合の飛躍の年となるようご祈念申し上げます。



●乾杯 三浦修市顧問理事



新年あけましておめでとうございます。皆様にご支援いただきありがとうございます。今年は猪年で突っ走るのもいいですが今年は後半が危ない年ですのでご注意ください。今年は猪、豚さんに因んで子供を多く生んでいただき私達のために頑張ってくださいと思います。それではご唱和をいただき今年は幸多いことを祈念して乾杯！

●手締め



草間副理事長の手締めで新春賀詞交歓会は賑やかな中に終了致しました。



組合三役 新年挨拶廻り

島田理事長、草間副理事長、穴戸副理事長、岡崎副理事長、丹野専務理事、事務局高橋で1月23日（水）に新年の挨拶廻りをした。

宮城県中央会では大内専務理事、高野主査と面談をした。今年、これからの景況観について情報の交換をし、更なる支援をお願いした。その後、東北経済産業局を訪問し蘆田部長に面会予定でしたが、会議が長引いたため面談は叶わなかった。



宮城県中央会



三浦宏顧問理事 旭日単光章受賞を祝う会



平成 30 年秋の叙勲・旭日単光章を受賞されました三浦宏顧問理事の祝賀会が盛岡グランドホテルで2月2日（土）に行われました。三浦宏氏は永年に亘る産学官連携による共同研究の推進と積極的な特許出願により特許有効活用企業として岩手県産業の発展に貢献されました。また「産学官の融合化で躍進を目指そう」を合言葉に社員が一丸となり社業発展にご尽力されたご功績が認め

られたものです。

式典は代表発起人挨拶、祝辞、祝電披露、記念品 贈呈、花束贈呈、受章者挨拶、鏡開き、乾杯と続き2時間半にわたり閉会となりました。誠におめでとうございます。



理 事 会

新春賀詞交歓会の日程に合わせて1月23日(水)午後3時より開催した。

出席者は島田理事長、草間副理事長、穴戸副理事長、岡崎副理事長、丹野専務理事、鈴木顧問理事、三浦顧問理事、永島理事、井上理事、元井理事、中島理事、手塚理事の12名が出席した。

島田理事長の挨拶に引き続き議事を進行した。

1. 新春賀詞交歓会に関する件
2. 通常総会までの会議日程に関する件
3. H31年度主な事業に関する件
4. 北青会に関する件
5. 全鍍連に関する件
6. その他



【北 青 会】

◆第7回総会開催

新会長：椎谷学氏、新副会長：元井広樹氏、

新専務理事に三浦修平氏を選出

平成31年度第7回総会を2月8日(金)に仙台市青葉区「スマイルホテル仙台国分町・シェルブール」で行いました。29会員のうち、出席17名、委任状8名で総会は成立いたしました。



司会は鈴木副会長が担当して開催されました。齋藤会長の挨拶で総会は始まりました。

その後、議事に入り、三浦副会長より第1号議案：平成30年度事業報告並びに会計報告、監査意見書を岡田監事、椎谷副会長より第2号議案：平成31年度事業計画並びに会計予算(案)、第3号議案：平成31年度会費の

額並びに徴収方法を説明されました。第4号

議案役
齋藤前会長、椎谷新会長

員改選(案)を元井専務理事が発表し、第5号議案その他の件を説明し承認されました。椎谷新会長、元井新副会長、三浦修平新専務理事より就任の挨拶を行った。その後交流会が始まりました。

交流会は椎谷新会長の挨拶、小島監事の乾杯で始まりました。賑やかに行われ、岡崎理事の中締めで

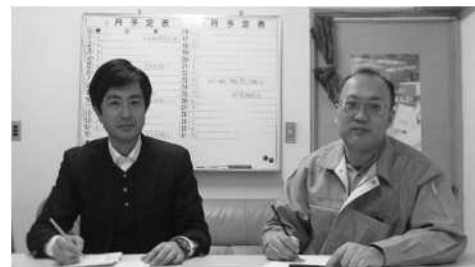
元井新副会長、三浦新専務理事

平成31年度総会を終了しました。



◆監事会

1月9日(水)昼12時からT S T i A事務局において平成30年度の会計監査を三浦修平氏、岡田俊介氏に出席いただき行われました。台帳、領収書、通帳等を照査しました。



全鍍連・委員会報告

●情報・国際委員会 (3月5日)

1. 平成30年度委員会事業収支の件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、平成30年度情報・国際委員会収支状況・また見込みについて、報告を行った。主な差異として、今年度より広告請求の時期をずらしたこと、広告収入が予算より少なかったことを説明した。

2. 平成31年度委員会事業計画案・収支予算案策定の件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、来年度事業計画案及び予算案について説明を行った。議長が各案について諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

3. 海外視察研修事業の件

①本年度視察報告

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、本年度(アメリカ)海外視察研修について、報告を行った。また参加団員より作成された視察研修報告書をその場で回覧した。

②来年度検討について

議長より「今年度は経営者向けに開催したが、来年度は技術者向けにするか経営者向けにするかなど委員の皆さんの意見を伺いたい。」と提案があり協議した結果、以下のプランをメインに計画を検討することとなった。

●フランスの sileane という会社を見学した。自動ひっかけの設備メーカー。売り先の半分がめっき企業で日系の企業にも多く販売している。また近隣にスプレーめっきをしている企業もあるので見学先としてはよい。

●フランスにバレルを製造しているメーカーがある。もしフランスに行くのならばそのようなメーカーの見学もよいのではないか。

以上の意見を踏まえ、三役及び事務局にて検討していくこととなった。

4. 「全鍍連」誌編集の件

議長の求めにより事務局より資料に基づき、「全鍍連」誌編集実績について報告を行った。全鍍連誌の主な掲載内容について、また今年度より新たに開始した「悠々自適」についても引き続き執筆依頼を継続することなど説明をし、一同これを了承した。

5. 全鍍連公式ホームページの件

議長の求めにより事務局より全鍍連公式ホームページについての報告が行われた。

●今年度より広告掲載企業を募集したところ、現在3社が掲載している。

●会員限定ページを作成し過去に全鍍連で作成した冊子等を掲載予定である。

●今年度より広告掲載企業に更新確認を行っている。以上3点を報告し、一同これを了承した。

6. 日韓定期会議の件

議長の求めにより事務局より本年度の定期会議の報告が行われた。また来年度は韓国側での開催となり、今後事務局にて日程を調整していくこととなった。なお、日韓定期会議に関して次のような議論が行われた。

●日韓の関係が良好ではない現状も踏まえ、開催の意味を問う声が組合内で上がっている。韓国企業に技術だけを盗まれてしまい、苦しんでいる企業もいる。

●30回以上続く行事であり、急になくすことが難しい。しかしそのような意見が上がっているのは承知しているので、今後考えていきたい。

7. 子ども霞が関見学デーの件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、本年度の開催について東京都鍍金工業組合協力の下、キーホルダー企画を中心に盛況に開催したことを報告した。また、(現段階では未定であるが)来年度開催の際も引き続き全鍍連PR事業として継続参加していくこと、一同了承した。

8. ハノーバメッセ開催の件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、報告を行った。1月29日に最終の打ち合わせが開催されたこと、またハノーバメッセの見学ツアー募集をかけたが人数不足により開催に至らなかったことを説明した。

9. 平成31年度委員会開催日程の件

平成31年度情報・国際委員会の日程は、次の通りに決定した。

○第1回 新元号元年7月4日(木) 三役会：13:00~14:00 委員会：14:00~16:00

○三役会 新元号元年10月8日(火)：14:00~

○第2回 新元号2年3月4日(水) 三役会：13:00~14:00 委員会：14:00~16:00

8. その他

①事務局より外国人材受け入れについての実態調査をする予定であることを報告した。

●現在電気めっき業は4月からの新たな在留資格制度の対象にはなっていないが、今後電気めっき業も対象とするよう国に要望する可能性もあることを踏まえ、今後実態を把握する必要があるのではないかと考えている。

●これまで海外進出の調査はしたことがあるが、技能実習生については一度も調査したことがない。

●海外関係と言う意味で情報・国際委員会としての調査を考えています。(総務委員会で担当する可能性もある。)

②意見交換 各委員より地域別に景況状況の報告等発表が行われた。概要は次の通りであった。

●県内で企業同士の差が顕著に表れはじめた。設備投資できる企業は更に大きくなり、それができないところは淘汰される形になってきている。

●どうしたら事業承継をうまくできるか模索している。講師を招いて講演を行うなど、組合をあげて事業承継を後押ししていきたい。

●人材不足については変わらず大きな悩みの種である。大学卒の優秀な外国人を受け入れることによって日本人社員の刺激になればと考えている。

●地方では公設試を担当できる人が少ない。技術指導ができる人が減ってきているので若手の育成が難しい状況になっている。

●経営委員会 (3月7日)

1. 平成30年度委員会事業収支の件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、平成30年度経営委員会収支状況・また見込みについて、報告・説明が行われた。

2. 平成31年度委員会事業計画案・収支予算案策定の件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、来年度事業計画案及び予算案について説明が行われた。議長が各案について諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

3. 人材育成事業「先輩経営者との意見交換会」の件

(1)平成30年度実施報告 議長の求めにより事務局より資料に基づいて、昨年9月21日に開催された本年度「先輩経営者との意見交換会」(講演者：太陽電化工業(株)会長伊藤豪氏)について報告を行った。本年度は全国から18名の若手経営者が参加し、伊藤氏より約1時間にわたりご講演頂いたこと後、工場見学をさせて頂いた旨を講演レポート・発表資料を交え報告した。

(2) 平成 31 年度実施計画 議長の求めにより事務局より資料に基づいて、これまでの開催実績を説明した。続いて来年度講師候補者の検討を行ったところ、吉野寛治氏（吉野電化工業(株)代表取締役 役）等候補者として挙がり、講師を依頼することとなった。また開催時期は本年度同様に 9 月中下旬頃を予定することとした。

4. 女性経営者部会の件

(1) 平成 30 年度活動報告 ①議長の求めにより事務局より、資料に基づいて、昨年 6 月 22 日(金)に開催した平成 30 年度女性経営者部会総会の様子を報告した。総会議事において部会の活動理念が上 程され、承認されたことを報告した。記念講演で富士電子工業株式会社渡邊氏にお越し頂き、「“ダイバーシティ経営”で儲ける会社をつくる！」というテーマにて講演していただいた事を報告した。

②資料に基づいて、昨年 11 月 30 日(金)に開催した研修会(株)大協製作所、東新工業(株)訪問について報告した。

(2) 平成 31 年度活動計画 議長の求めにより事務局より、来年度総会について 6 月 7 日(金)に開催予定であることを報告した。

5. 統計報告について

議長の求めにより事務局より資料に基づき、全産連景況・鉱工業指数・都道府県別有効 求人倍率・最低賃金・生産額調査等の各統計について報告を行った。各地の景況感および 有効求人倍率が高水準で推移している等、報告を行った。また、景況調査について事務局より引き続きウェブでの回答にご協力頂きたいこと、ウェブ回答でメールアドレスを記入頂いた事業所には今後メールで案内を出すことを予定していると報告した。求人倍率については現在大企業も含めた全体の統計を掲載しているが、今後中小企業など更に実態に沿った統計を掲載するよう意見が出た。

6. 平成 31 年度委員会開催日程の件

平成 31 年度委員会日程を下記のとおり決定した。

新元号元年 7 月 3 日(水) 13:00~14:00 経営三役会 14:00~16:00 第 1 回経営委員会

新元号元年 10 月 9 日(水) 13:30~15:30 経営三役会

新元号 2 年 3 月 5 日(木) 13:00~14:00 経営三役会 14:00~16:00 第 2 回経営委員会

7. その他(情報交換)

各委員より地域別に景況状況の報告等発表が行われた。概要は次の通りであった。

●同じ地域でも事業所によって格差が広がってきている。最近では自ら廃業にする事業所が多い印象を受ける。

●組合活動に積極的に参加する事業所とそうでない事業所の差が激しい。もっと積極的に参加してもらえるように、魅力ある活動はなにかと模索している。

●パワハラやセクハラを訴えて退職する職員がいた。お互いに事情は聞くが、言った言わないの水掛け論になってしまい大変だった。講習を受けさせたりポスターを貼った りなどして対応する必要がある。

●これから数年にかけて段々と事業承継の問題が深刻化してくると思われる。講師を名 招いて講習など行うようにしている。

●最近では全体的に仕事が落ち着いてきた印象を受ける。その代わり人手不足は解消したが、次の忙しさに備え人員は確保しておく必要があるので今のうちに優秀な社員を採用していきたい。

●技術委員会 (3月4日)

1. 平成 30 年度委員会事業収支の件

議長の求めにより事務局が資料 1 頁に基づき平成 30 年度技術委員会収支の内容説明を行った。

2. 平成 31 年度委員会事業計画案・収支予算案策定の件

議長の求めにより事務局が資料に基づき、平成 31 年度技術委員会事業計画案及び収支予算案の説明を行った。議長がこれを諮ったところ全員異議なく承認可決した。

3. 平成 30 年度全国めっき技術コンクールの件

議長の求めにより事務局より、本年度は 476 件の参加があった旨、報告された。また東 京都競技大会等促進支援事業に採択され、奨励金として 543,000 円が入金された旨の報告を行った。

4. 平成 31 年度委員会開催日程検討の件

平成 31 年度委員会日程を下記のとおり決定した。

新元号元年 8 月 23 日(金)10:30~11:30 技術三役会

12:30~16:30 第 1 回技術委員会

全国めっき技術コンクール審査委員会(外観審査)

新元号元年 10 月 23 日(水)13:30~15:00 技術三役会

15:00~16:00 全国めっき技術コンクール審査委員会(総合審査)

新元号 2 年 3 月 3 日(火)13:00~14:30 技術三役会

14:30~16:30 第 2 回技術委員会

5. コンクール課題検討の件

①硬質クロムめっき部門形状検討 事務局より検討経緯と課題について説明した。

●これまで硬質クロムめっき部門を 2 回実施したが、参加者より課題試料の形状について、既存の L 字型の試料から、より現場に近い試料形状に変更できないか指摘があがっていた。

●昨年 12 月、野村技術副委員長の手配により新たな課題試料案(円柱 2 段)を試作。

今年 1 月技術三役及び有志にて、10 μ で硬質クロムめっきテストを実施した。

●1 月、三役会にて膜厚測定結果を協議。東京組合にて蛍光 X 線にて測定した値と自社にてマイクロメータで測った値に隔たりがあり、円柱形状では膜厚測定が困難と結論。

●2 月、野村技術副委員長の手配により、マスキング評価も視野に入れた、直方体の中央にくぼみを入れた新たな形状を製作した。

●今回の新試料を検証したところ、測定箇所となるくぼみに、(切削加工の際に発生したであろう)凹凸が確認され、正確な測定が担保できない可能性がある。

●さらに製作費が従来の試料片の 6 倍以上かかる可能性があり、コスト面でも容易でない。

これを受けて一同協議し、マイクロメータで円柱試料を測定する案を再検証したが、めっき作業の前後に同一人物にてすべて測定することは困難であり、現時点では実質技能競技大会として実現することは難しいとの結論となった。

議長は、「皆様の協力を得て検証を進めてきたが、膜厚測定の課題がネックとなり現時点では新形状への移行は断念せざるを得ないと考えている。既存の L 字型については、様々なご意見があるものの、技能大会としては技術の差が明確に見られるため、コンクールとしては十分成り立っており、現状でも大きな問題は無いと認識している。来年度は従来の形状のまま実施することとし、これまでの検証課題をヒントにまた意見があれば技術委員会として検証を続けていきたい」と述べ、一同了承した。

②アンケート結果報告 事務局より 9 月に実施したアンケートについて、協力委員に対し謝辞を述べ意見内容を簡単に報告した。

「研磨」について次のような意見が上がった。

- 研磨に関して、今年度研磨-装飾クロムめっき部門が30件を下回った。
- 研磨については、めっき技術コンクールが言わば唯一の技能を競う場として残っており、引き続き研磨技能の研鑽・向上のため、出来るだけ参加数を維持できるよう、技術委員会として協議していきたい。
- 課題アンケートでも指摘されているが、硬質クロムめっきにおいては、前処理・後処理などで研磨が実際に行われている。NiCr同様に「研磨-硬質クロム」のセット案も検討する余地はありと考えられる。
- 研磨-装飾クロムめっき部門について、研磨技能がより反映されやすくなるよう、研磨の配点ウェートを上げることも検討すべき。

以上、課題点や意見を共有し、引き続き検討していくこととなった。

6. 平成31年度全国めっき技術コンクール実施計画について

議長の求めにより、事務局より来年度のスケジュールについて説明を行った。また来年度の実施要領案について説明を行い、無電解Niめっき部門の膜厚測定機器の変更に伴い、P濃度からめっき膜厚を補正する算出方法を変更する旨、明記することとなった。

7. その他

①卓越技能者表彰候補者選考委員会報告

卓越技能者表彰候補者選考委員会にて推薦決定された平成31年度卓越技能者（現代の名工）の全鍍連からの推薦候補者について、神谷副会長（選考委員長）より報告がなされた。

②情報交換 出席委員より次のような意見が発表された ●米中摩擦の影響からか、半導体装置関連等をはじめ、減速がみられる。

●慢性的な人材不足が続いている。

●（コンクール上位賞受賞企業が固定化しているのではとの指摘を受け、）コンクール 上位賞を勝ち取るには何度も参加し試行錯誤が必要。社員のモチベーションを挙げて 挑戦させ続けることが重要。

以上、すべての議案の審議が終了したので、野村副委員長が閉会の辞を述べた後、議長 が閉会を告げ会議を終了した。

●環境委員会（3月8日）

1. 平成30年度委員会事業収支の件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、平成30年度環境委員会収支状況・また見込みについて、報告が行われた。また平成31年度委員会事業計画案・収支予算案について 事務局より資料に基づき説明が行われ、議長が各案について諮ったところ、全員異議なく 承認した。

2. 平成30年度秋期排水濃度調査報告について

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、平成30年度秋期排水濃度調査報告について、報告が行われた。一部暫定基準を超過している事業所が数事業所見られると、事務局 より指摘があった。法令違反であるため当該事業所に対しては、環境委員を通じて特に実態を注視して頂くよう要請した。 また一律超過事業所数は、各物質概ね減少傾向にあるものの、春期調査時は超過事業所 が比較的多くなる傾向がある。寒い時期に濃度が落ちにくい傾向が見られるが、沈殿槽の処理能力が低い場合、冬場においては沈降速度が遅いためフロックがキャリアオーバーすることが原因ではないかと推測されると、技術顧問より解説がなされた。

3. ほう素、ふっ素暫定排水基準について

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、ほう素、ふっ素の暫定排水基準の対応について次の通り説明を行った。

- ほう素、ふっ素の暫定排水基準については、今年の6月30日に延長期限を迎える。
- 昨年10月2日に開催された「排水処理技術検討会業種ヒアリング」において、これまでの排水濃度調査を通じた低減努力を提示した上で、暫定排水濃度を目標値に引き下げることが技術的に困難であることを報告。現状の通り暫定基準値を引き続き3年間延長することを要望した。
- 先月2月28日に開催された「中央環境審議会水環境部会排水規制等専門委員会」においてほう素・ふっ素に係る暫定排水基準の見直し案が審議され、下記要望の通り承認されたことを報告した。

《3年間延長：平成31年7月1日～平成33年6月30日》ほう素：30mg/l

《3年間延長：平成31年7月1日～平成33年6月30日》ふっ素：40mg/l(日排水量50m³未満) 《3年間延長：平成31年7月1日～平成33年6月30日》ふっ素：15mg/l(日排水量50m³以上)

4. 亜鉛暫定排水基準について

議長の求めにより、事務局より資料に亜鉛暫定排水基準の対応について次の通り説明を行った。●亜鉛の暫定排水基準については、平成33年12月10日に期限が設定されており、すでに全鍍連に対し見直し検討に係る調査依頼を受けている。すでに、これまでの排水濃度調査や都内における巡回指導など取組実績を報告している。

●また一律基準超過事業所を中心に個別の取り組み事例や改善実態など報告を求められており、排水濃度調査を通じて調査依頼をすることを予定している。引き続き調査に協力を求めたいと考えている。

●電気めっき業とともに亜鉛暫定排水指定業種となっている、金属鉱業（鉱山）が今後排水対策設備を本格的に導入すると聞いている。次回はよいよ単独での暫定要望のなる可能性があり決して楽観視はできない。一律超過事業所においては、工程内の工夫を強化し、濃度低減に向けた努力を徹底していただきたい。

●来週3月11日に技術検討会ヒアリングに臨み、全鍍連における定期排水濃度調査や巡回指導実績等の取り組み、また技術的に排水処理が困難であることなど具体的に説明を行う予定である。

5. VOCの取組み状況について

議長の求めにより、事務局より平成29年度VOC排出量（668t）を報告した。平成23年度より設定している目標値（＝排出量791t、平成21年度実績値）を達成したことを報告した。

6. 環境整備優良事業所表彰・認定について

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、環境整備優良事業所表彰・認定制度について説明を行った。本年度は6事業所を優良事業所として、昨年全国大会にて表彰したことを報告した。また83事業所を優良事業所として3年間認定（平成31年1月1日～平成33年12月31日）したこと、それぞれ報告した。

また優良認定事業所の普及が進んでいない点について、従来の表彰プレート上に貼り付けるステッカーだけでは、PR効果が低いとの指摘があがり、今後認定事業所に対してはステッカーマークの電子媒体を配布し、名刺を活用した新たなPR案が挙げられた。本件事務局にて次回より運用できるよう準備を進めることとなった。

7. 平成31年度委員会開催日程の件

平成31年度委員会日程を下記の通り決定した。

○《新元号》元年7月5日（金）環境三役会 11:00～13:30 第1回環境委員会 13:30～16:00

○《新元号》元年10月10日（木）環境三役会 13:30～15:30

○《新元号》2年3月6日（金）環境三役会 11:00～13:30 第2回環境委員会 13:30～16:00

7. その他

①清水専務より、土壌汚染対策法について、4月より省令が変更となり、届け出義務の生じる土地の形式変更の要件が面積3000平米から900平米になることを報告した。一部県や政令指定都

市によっては上乘せにより、要件がより厳格な地域もあるため、各地の情報や説明会などに留意されるよう呼びかけた。

②各委員より自由発表が行われた。

- 昨年12月頃から景況感が減速しつつあるようだ。米中貿易摩擦による影響も危惧される。
- 排水処理施設で微生物処理を導入予定である企業もあり効果に期待したい。
- 人材確保が相変わらず厳しい。
- 原料コストが上昇する中、周囲で単価を上げていく雰囲気醸成されつつある。

●総務委員会 (3月12日)

1. 平成30年度会計収支見込みの件

議長の求めにより、事務局より平成30年度会計収支見込みを次の通り報告し、一同了承した。

- 一般管理費において、昨年消防の立ち入りがあり、事務所書庫に関し耐震指導を受けた。書庫をはじめ大型事務用品の設置費・処分費が発生見込。コンクール東京都助成金より543,000円の収入があった。その他は概ね予算額どおりに執行。
- 総務委員会において、70周年記念事業費を前期繰越剰余金より委員会収入として当てた。今後記念誌印刷費等で370万円の支出を見込。トータルでは予算にほぼ近い数字で決算となる見込み。
- 技術委員会において、参加件数の減少に伴い、参加費収入が減少。支出では測定費用が追加で発生。
- 情報・国際委員会において、機関誌広告収入が減少。子供霞が関見学デーやハノーバメッセ対応をはじめ含め、一部事業で予算額より超過した。
- 経営委員会・環境委員会においては、ほぼ予算通りに執行した。

2. 平成31年度予算

議長の求めにより、事務局より平成31年度予算案について次の通り説明を行った。

- 一般管理費において、本年度とほぼ同様に予算を計上。職員1名入職に伴い、給与・通勤費増。プリンターリース満了に伴い事務機器費の大幅減。
- 各委員会予算については、基本的に本年度と大きな変化はない。各々委員会内で承認を頂戴した。情報・国際委員会においては、新たにWEBバナー広告を導入し、新たな収入源として計上。例年同様に予算には計上していないが、平成31年度もコンクール東京都奨励金についても同額(543,000円)を申請予定。

以上、予算案に対し議長が諮ったところ、満場一致で了承された。

3. 創立70周年事業実施報告について

議長の求めにより、事務局より創立70周年事業について次の通り説明を行い、一同了承した。

- 昨年11月21日にホテルニューオータニにて、創立70周年式典を盛大に開催した。来賓関係者計約260名が参加。参加頂いた方に対し、この場を借りてお礼を申し上げる。
- 式典においては、60周年式典同様、周年記念表彰を実施。経済産業大臣表彰をはじめ、計23名の方が表彰を受けられた。
- 70周年記念誌を三役・事務局を中心に編集し今月発刊する。現在印刷段階に入っており、近日中に各企業へ届けられる見込みであるので、ご覧いただきたい。

4. 青年部交流会開催の件

議長の求めにより、事務局より2/22松山にて開催された青年部交流会について報告を行った。

今年も青年部交流会後、有志による「未来を担う若手の集い」が開催された。若手参加者より有志の会との同時開催を希望する声が多く聞かれ、来年度についても同様なスタイルで開催することを諮ったところ、一同了承した。来年度は2月21日(金)長野にて開催することとなった。

5. 定款・就業規則の変更及び賦課金徴収案について

議長の求めにより、事務局より定款・就業規則の変更及び賦課金徴収案について次の通り提案・説明を行った。

① 《定款変更》「暴力団排除条例」対応

●「暴力団排除条例」が全ての都道府県で施行されるなど暴力団等反社会的勢力の排除に向けた対応が浸透していることを踏まえ、組合員資格等において暴力団排除を定款上に明記する。

② 《定款変更》員外監事要件の見直し

●平成27年5月1日に「会社法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」が施行されたことに伴い、中小企業等協同組合法等について、員外監事要件の見直し等が行われており、定款に反映させる。

③ 《就業規則変更》年次有給休暇の時季指定義務について

●平成31年4月1日から順次施行される「働き方改革関連法」のうち、全ての事業所に平成31年4月1日から適用されることから、事業者の義務となる「年次有給休暇の時季指定義務」に関する規定を就業規則に明記する。

④ 役員候補者選考委員会規約の名称変更及び改正

●「役員候補者選考委員会規約」が総会及び理事会の権限を侵害するものでないことを明確にするため、名称を「役員候補者選考委員会内規」に変更する。

●現行の役員候補者選考委員会規約において、会長候補者の要件として「出身企業の代表権を有している」ことも会長選考の要件に加え、内規に追加し明記する。

①～④について議長が諮ったところ一同了承した。

⑤ 賦課金徴収案について

●全鍍連の運営を長期安定的に行いつつ、個々の組合の賦課金負担を軽減する一つの方法として、年度末で大部分の事業が実施され支出もほぼ正確に見込める時期の3月に、ある程度（例えば百万円を超える）剰余金が生じる可能性がある場合は、剰余見込み額の一部を各組合から徴収しないことにより各組合に資金を還元（全鍍連の繰越剰余金はその分減少）する方法を提案したい。

●なお、毎年総会で、賦課金を見直すことも考えられるが、年度途中で予測が困難な追加支出が必要となった場合、単年度収支が赤字となり、その結果、全鍍連の運営が健全に行われていないと判断され、例えば国への表彰手続きや叙勲・褒章の申請の際に支障が生じることも懸念される。

●また全鍍連が該当する非出資型商工組合連合会は、経済事業を行わずその事業が業界全体の改善発達を図ることを主とするなど公益性があり、営利（利益を分配すること）を目的としていない。このため、他の経済事業を行う組合とは異なり、法で配当が認められていないため、決算で剰余金が生じた場合であっても個々の組合に余金を分配することは制度上認められていない旨、中央会より助言を受けている。

本件説明後、遠方組合における旅費負担について、全鍍連会計より捻出出来ないか問題提起があり、一同喧々譁々協議を行った。

●遠方組合における旅費負担は無視できるものではないが、一方で現在常勤事務局員が計4名体制となり、従来より財政事情に余裕がなくなることは明白であり、今後継続的に旅費を捻出し続けるのはハードルが高い。

●過去には旅費負担を行っていたが、全鍍連の財政が厳しくなり10数年前より打ち切った。現在は東京近郊以外の組合においては、組合内より補助が出ている。一律補助（10000～25000円）だったり、片道分であったり、組合によってまちまちの状況。

●旅費計算や入金対応など事務局における管理作業負担も無視できない。

●ルールとして確立するには、組合間の公平性を考慮する必要がある。また、現状いくら財政を確保しておけばよいか不透明である。

概ね以上の意見が挙げられた。今回提案された新たな賦課金徴収案により、(少額と思われるが) 賦課金の(実質) 還元も見込め、かつ安定的な財政運営が担保できるため、旅費負担については引き続き組合(または出席者)の負担をお願いすることとなった。

その他本議案に関連して次の意見が挙げられた。

- 従来明記していた、理事会議案下部の注釈において、「賦課金の徴収額について会計 収支において収入不足がある場合は追加で徴収」という文言について、標記方法の変更を再検討されたい。

- 定款の変更に当たっては、広く組合員にも周知ができるよう、機関誌やホームページ を活用するなど策を今後検討頂きたい。

以上一同了承し、①～⑤について次回総会にて議案として最終的に上程することとなった。

6. めっき業に特化した損害制度について

議長の求めにより、事務局よりめっき業独自の損害保険制度について以下のとおり説明 を行った。

- 全鍍連として昨年12月に全国中小企業共済財団に加盟した。各種保障制度が利用可能なので、各めっき事業所の皆さまにおかれては利用を検討いただければと思う。

- その上で現在、めっき業に特化した保険制度を確立できないか検討している。汎用的 な保険の場合では免責事項になりうる事例もカバー出来るような、めっき事業所の皆さまにとって利用しやすいシステムを考えていきたい。

- 熱処理業界ではすでに独自の保険制度が確立された。実態に合わせた保険制度をつくるため、3年を要したと聞いている。今後損保会社を交えて制度設計を具体的に進めるにあたり、総務委員会の皆さまを中心に調査協力等を依頼する可能性があり、その 際は何卒協力をお願いできればと考えている。

- また将来、全鍍連事務局に対する事務手数料収入や還元される剰余金に関しては、全鍍連事務局ではなく組合の皆さまに還元が出来ればと考えている。

なお、制度内容を各企業へ周知するのに理解しづらい部分も感じられる。例えば今後ブ ロック会議等を通じて説明会を開催されるなど、制度について広く周知できる方法を今後 検討して頂きたい。以上、本件一同了承した。

7. 平成 31 年度委員会開催日程の件

平成 31 年度総務委員会の開催日程について次の通り決定した。

○第1回 新元号元年 10 月 15 日(火)

○第2回 新元号2年3月 10 日(火)

○それぞれ三役会 13:00~14:00、委員会 14:00~16:00

8. その他

- 景況感については企業間でばらつきがあるが、人手不足が継続している。

- 米中関係の先行きが気になる。オリンピック需要はピークをこえたように感じる。

- 組合内で事業承継に係る勉強会を実施している。

予 定

期 日	場 所	内 容
4月5日(金)	TSTIA事務局	T S T I A 監事会
4月11日(木)	TSTIA事務局	T S T I A 理事会
4月17日(水)	機械振興会館	全鍍連 監事会
5月15日(水)	行々法華クラブ仙台	T S T I A 理事会 2019年度通常総会 講演会 懇親会
5月16日(木)		T S T I A 懇親ゴルフコンペ
5月29日(水)	機械振興会館	全鍍連 常任理事会 2019年度通常総会、理事会 懇親会
6月7日(金)	仙台ガーデンパレス	北青会 役員会&勉強会 (TSTIA共同開催)
7月3日(水)	機械振興会館	全鍍連 経営三役会、委員会
7月4日(木)	機械振興会館	全鍍連 情報・国際三役会、委員会
7月5日(金)	機械振興会館	全鍍連 環境三役会、委員会
7月2日(火)	札幌ガーデンパレス	T S T I A 理事会
7月19日(金)		北青会 懇親ゴルフ&暑気払い



連絡事項

◆お知らせ

- ・会 員：米沢アルミ工業株式会社
代表取締役に小島康貴氏が2月20日就任いたしました。
前代表取締役 小島浩之氏は取締役会長に就任いたしました。
- ・会 員：東邦メッキ株式会社
代表取締役社長に島田修平氏が2月就任いたしました。
前代表取締役社長 島田博雄氏は代表取締役会長に就任いたしました。
- ・会 員：大森クローム工業株式会社
会長 小口順一郎氏が3月13日ご逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。
- ・賛助会員：有限会社 安孫子鍍研資材店
取締役会長 安孫子惣一氏が3月8日ご逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。
- ・賛助会員：株式会社 板通
名誉会長 板橋敏雄氏が3月25日ご逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。
- ・賛助会員：奥野製薬工業株式会社 東北営業所
所長に谷許俊之氏が4月就任いたしました。
前所長 福島英樹氏は横浜営業所へ移動となりました。

◆平成31年春期 ほう素、ふっ素等の排水濃度調査のお願い

理事長 島田博雄

めっき業界の実情を行政当局に理解していただくために基礎データとして活用致しますので、必ずご協力下さいますようお願い申し上げます。

この度、春期の調査を実施致します。「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」「亜鉛」を使用・不使用に関わらず全組合員を対象に排水濃度調査を実施しております。環境科学研究所の分析結果、下水道局の分析結果、自社分析結果のどれでも構いませんので、ご記入をお願い致します。

また、「使用していない」「数値がない」場合でも必ず返信をしていただきますようお願いいたします。

つきましてはFAXしました「排水濃度調査票」にご記入の上、**4月26日(金)**までに、組合事務局までにFAXにてご提出くださいますよう、宜しくお願い致します。

◆令和元年度通常総会開催のご連絡

第23回通常総会を下記の日程で開催いたします。

日程：令和元年5月15日(水)

場所：ホテル法華クラブ仙台

詳細は別途ご案内いたします。多くの会員のご出席をお願いいたします。

全国鍍金工業組合連合会
各組合員企業のみなさまへ

全国鍍金工業組合連合会
専務理事 清水 篤人

《調査のお願い》公害防止税制の使用実績・使用見込について

拝啓 平素より本会の事業運営に格別のご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
「汚水・廃液処理設備に対する課税標準特例」（公害防止税制）の現行措置が 2020 年
3 月 31 日で適用期限を迎えるにあたり、経済産業省より公害防止税制の使用実績・
使用見込について、事務局に調査依頼がございました。つきましては、貴社の公害
防止税制の使用実績・使用見込についてご回答いただけませんか でしょうか。
ご多忙の折ご面倒をお掛けし誠に恐縮ですが、4 月 26 日（金）までに、全鍍連まで
メールにてご回答を賜りますようご協力をお願いいたします。

敬具

記

1. 回答票

誠にご面倒をお掛け致しますが、回答票を全鍍連公式ホームページよりダウンロード
頂けますようお願い致します。

<https://zentoren.or.jp/>

ぜんとれん 検索

2. 提出先及び回答期日

全国鍍金工業組合連合会 事務局 調査締切期日：4 月 26 日（金）まで

メール：info@zentoren.or.jp

3. ご参考

公害防止税制（平成 30 年度版中小企業施策利用ガイドブックより）

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/g_book/h30/download/06zaimu.pdf

お忙しいところ、誠にご迷惑をお掛け致します。
何卒ご協力のほど、宜しくお願い致します。

★海外展開ニューズレター★

《PR情報》広報誌とつきよ Vol.42「海外展開」特集を発行しました

<https://e-net.smrj.go.jp/archives/11041>



★今週のトピックス★

◆◆◆全 国◆◆◆

《補助金情報》平成31年度予算「デジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発」の公募を行っています

<https://e-net.smrj.go.jp/archives/11043>



★支援機関ニュース★

◆中小企業ビジネス支援サイト【J-Net21】

<https://e-net.smrj.go.jp/archives/11047>

.....

◆中小機構イベントカレンダー

<https://e-net.smrj.go.jp/archives/11049>

.....

◆中小企業関係機関リンク集

<https://e-net.smrj.go.jp/archives/11051>





【編集後記】

新元号が令和と発表されました。時間と共に根付いていくことと思います。4月一杯は平成最後の…というフレーズが更に沢山聞かれることと思います。/

今年3月11日はあの東日本大震災の日が来ました。あれから8年経ったのです。やはりこの日が来るとあの時のことを思い起こします。日々は多くを語ることは少なくなりましたが、この日ばかりは改めて語り合い災害の時の大変さや、また来ないとも限らない日のために避難の方法を再認識し、同じことを繰り返さないようにしたいものです。/

年齢と共に新たな出会いは少なくなっていくものですが、2月に中学の同期会がありました。こんな時しか会えない人が殆どで話は尽きなく昔ばなしや現況について長時間に亘り楽しいひと時を過ごしました。既に亡くなった人もおり、次回はいつになるか分かりませんが、それまでは元気でいようとあらためて健康の大切さを認識しました。

桜の4月は新たなスタートです。また1年元気で活動していただきますよう宜しくお願い致します。

東北・北海道表面処理工業組合 事務局

〒983-0852

仙台市宮城野区榴岡3丁目11-5 A-106

TEL 022(792)2332/FAX 022(792)2333

e-mail:tstia@nifty.com

★新聞・雑誌の切抜き★

2019年（平成31年）1月7日・月曜日

- ①2019年はどんな年になるのか。
- ②2019年はどんな手を打つか。
- ③中小企業が勝ち残るためのポイントは何か。

中嶋金属社長

中嶋 哲也氏



①市場環境は厳しいと考える。既に半導体製造関連向けメッキ事業が低迷しており電気自動車(EV)部品向けメッキ事業も想定ほど伸びていない。消費増税も影響するだろう。

②当社の強みは一品一様の顧客要求への迅速な対応と、ピンホール(微小な穴)をなくしたメッキ技術。これまでに以上に医療や、航空

医療・航空向けに力

宇宙・防衛産業で使われる部品向けのメッキ事業に力を入れている方針だ。

③変化への柔軟な対応が重要。技術力と人材が力ギを握る。無理な課題に依頼も、挑戦することが大事。

術者集団になれる。(京都市石京区)

座学や講習だけで人は成長しない。修羅場をくぐり抜けることで人は成長し、技術は成長する。

1月8日・火曜日 2019年（平成31年）

座標軸



石田さん

失敗は若いうち

▽:「実験ではうまくいったが、金型には使えなかった」とメッキ開発の苦い思い出を話すのは、野村鍍金(大阪市西淀川区)シニア・フェローの石田幸平さん。2018年

▽:ただ失敗するに大きい」からだ。

▽:後進には「すぐに研究の成果が求められるが、若いうちに無駄なことを懸命にやるのも大事」と助言する。「歳をとってからの失敗はダメージが大きい」からだ。

▽:ただ失敗するに大きい」からだ。

▽:ただ失敗するに大きい」からだ。

度「現代の名工」の電気めっき工に選ばれた。

▽:後進には「すぐに研究の成果が求められるが、若いうちに無駄なことを懸命にやるのも大事」と助言する。「歳をとってからの失敗はダメージが大きい」からだ。

TYPE OF INDUSTRY

1月16日・水曜日 2019年（平成31年）

東新工業、いわきに新工場

電子部品メッキ 主力拠点、来年6月

【いわき】東新工業（横浜市金沢区、山崎慎介社長、045・785・1800）は、福島県いわき市の四倉工業団地に電子機器などの部品向けメッキ加工の大型工場を建設する。津波・原子力災害被災地雇用創出企業立地補助金に採択され、総工費73億円をかけ、3月に着工、2020年6月の完成予定。21年1月から本格操業に入り、同社の中核工場として需要増加に対応していく。

新工場は敷地面積4 模。福島県企業局が造 する。同社4拠点目の万平方メートル、延べ床面積 成しているいわき四倉 国内工場となり、いわきは1万6000平方メートル 中核工業団地の2期区 さい市では2カ所目。操業時には地元で70人をと東新工業で最大規模の第1号として進出

雇用する予定。

同社は電子部品材のメッキ加工を事業化しており、銅合金やステンレス素材をプレス加工前後にフープ材に部分メッキする高い先端技術により事業を展開する。コネクタに関連では日本の80%程度を加工している。民生、

車載、産業機器、医療用機器を加工しており、今後は車載用や衣料機器向けが増えていく方向にある。

このため、同社の主力工場をいわき市に新設、高精度の電子部品用表面処理事業を強化し、マザー工場として拡充する。

また、今夏には長野県松本市にも従業員100人規模の工場が完成する。今後は横浜の本社工場と、いわき市の好間中核工業団地に立地するいわき工場も含め需要増加に対応していく。

1月28日・月曜日 2019年（平成31年）

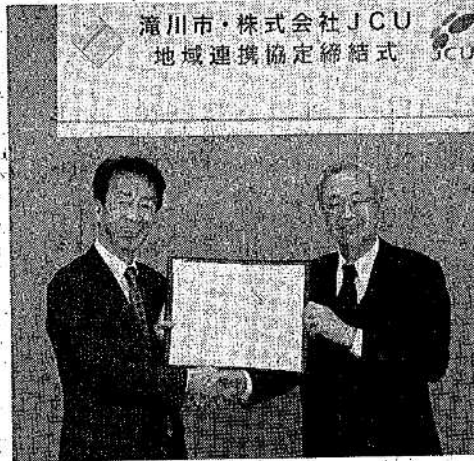
JCU、北海道滝川市連携

観光振興・災害対策など支援

JCUは北海道滝川市と地域連携協定を締結した。同市内に太陽光発電装置を設置・稼働しているほか、2018年6月にワイン醸造を主力事業とする子会社の「そらぶちファーム」を同市に設立し

ている。今回の締結により、ワイン事業によ

る観光振興や同市の難病を持つ子どもたちのための自然体験施設の支援、太陽光発電装置からの電源供給による災害対策など幅広い連携を進めていく方針。



北海道滝川市・前田康吉市長（左）と、JCU・小澤恵二会長兼CEO

2019年(平成31年)2月3日(日曜日)

仙台・ケディカと石巻・山大が受賞

県内産業の発展や地域経済の活性化に寄与した企業や個人に贈る「富県宮城グランプリ」の表彰式が1月31日、県庁であった。総合表面処理のケディカ(仙台市)、製材業の山大(石巻市)がグランプリに選ばれた。

ケディカは電子機器や自動車分野で培った自社技術を高め、医療分野に参入。東北大と連携した自社製巨開発などが評価された。三浦智成社長は「表面処理の技術で地域社会に貢献したい」と誓った。

県内最大の製材工場を有する

山大は、県産杉を主体とした製品供給の仕組みを構築して林業



村井知事から表彰状を受け取るケディカの三浦社長(左)

振興に貢献した。高橋暢介社長は「今後も県産材の普及に取り組みたい」と意気込んだ。

表彰状を手渡した村井嘉浩知事は「会社を発展させ、宮城の経済を貢献してほしい」と激励した。富県宮城グランプリは2008年創設。東日本大震災の影響で11、14年度は休止し、15年度に再開した。

他の受賞団体は次の通り。

ものづくり産業振興部門賞 北光(栗原市)▽「みやぎの食」振興部門賞 丸山(蔵王町)▽地域産業革新部門賞 南三陸志津川さんさん商店会(南三陸町)

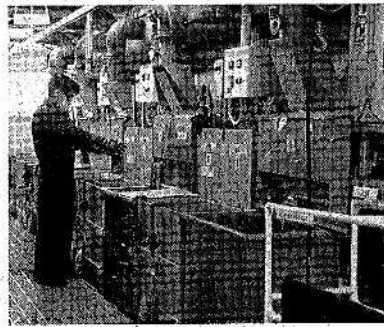
スズキハイテック

EV関連開拓で新事業

無電解ニッケルメッキライン 月内に稼働

【山形】スズキハイテック（山形市、鈴木一徳社長、023・631・4702）は、電気自動車（EV）関連などの市場開拓に向けた新規プロジェクト（PT）を2019年から段階的に立ち上げる。第1弾として、PCU（パワーコントロールユニット）冷却器向け無電解ニッケルメッキラインを今月中に稼働する。新プロジェクト関連の設備導入などで約8億円の投資を見込む。

社内で6PTを「重ケルメッキ関連の三つ要プロジェクト」とし、車載用センサー・置付ける。無電解ニッケルメッキライン向け



プロセスの年内立ち上げ、航空部品・産業用ロボット向け、インジエクター向けのPTを21年にそれぞれ量産化する計画。

▲ 本社工場に新設したPCU冷却器向けの無電解ニッケルメッキラインは第

1弾となる。8月には自動化ラインを稼働し、時期は未定だが、無電解ニッケルメッキラインは増設を検討している。

今後、本社工場では、顧客の評価などを踏まえ、インジエクター向け硬質クロムメッキと産業用ロボットなどに使う炭素繊維強化プラスチック（CFR

）素材への独自メッキプロセスを構築する。半導体関連の尾長島工場（山形県川西町）は、EV向けモジュールなどへの剥離対応の新プロセスを構築、年内の立ち上げを見込む。

自動車、半導体関連のメッキ加工を手がけるスズキハイテックは事業の再構築を進め

る。18年5月期売上高は約14億円。鈴木社長の規模を「目指す」としては「二連のプロジェクト」

3月12日・火曜日 2019年（平成31年）

表面処理工程能力2倍

亜鉛ニッケル合金メッキ

トップコート被膜形成

新和メッキ



【新潟】新和メッキ工業（新潟県上越市、滝見直人社長、025・524・5426）

は、耐久性を高める表面処理を施した亜鉛ニ

ツケル合金メッキ「新和ZiNT（ジント）」の事業を強化する。4月初旬にも、表面処理工程の能力を2倍にし、さらなる受注増を

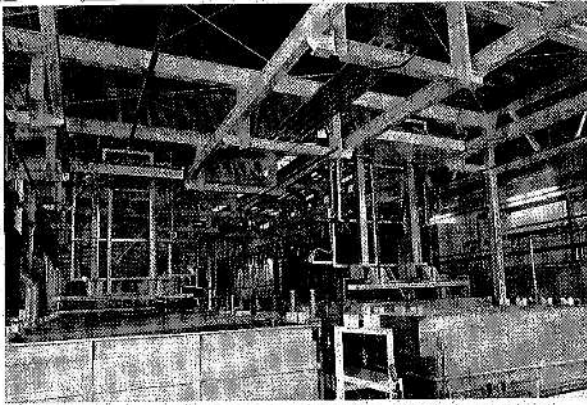
獲得するのが狙い。能力増強により、1年後には、新和ZiNTは、酸性の薬品を使って亜鉛ニッケル合金メッキを施した後に、別の薬品に浸して表面処理をし、トップコート被膜を形成する。同社が実施した塩水噴霧試験では、通常の亜鉛メッキに比べて20倍、亜鉛ニッケル合金メッキと比べても2倍の耐食性があることを確認した。

▲米パブコの担当者と新和ZiNTについて打ち合わせする滝見新和メッキ工業専務（右）

2018年の事業化以来、自動車部品メーカーや機械メーカーなどから引き合いが多く寄せられている。「幅広い業界に使用してもらうため、増強を決めた」（滝見直見専務）。

現在は共同開発の相手である米パブコとライン改造に向けた調整をしている。今後は展示会にも出展攻勢をかけ、需要のさらなる開拓を進める。

3月13日・水曜日 2019年（平成31年）



処理槽への部品投入から乾燥まで一気通貫で行える自動の大型アルマイト処理ライン

宮田アルマイト工業

E/V部品の表面処理拡大

新工場稼働 6億5000万円投じ来月

【諏訪】宮田アルマイト工業（長野県宮田村、清水光吉社長、0265・85・2340）は、約6億5000万円を投じて設置するアルマイト処理の新工場を4月から稼働する。2018年、近隣にあったオリンパスの旧工場を入手し、リフォームとアルマイト処理ラインの設置を進めていた。現在、主力の自動車用ダイカスト部品向けのほか、需要拡大が見込まれる電気自動車（E/V）部品向けの表面処理を強化する狙い。これにより、18年9月期に7億3000万円だった売り上げを、19年同期には8億3000万円へ、20年同期には10億円超を見込んでいる。

新工場の敷地は1万7500平方メートルで、延べ床面積が約4500平方メートル。処理槽への部品投入から乾燥まで一気通貫で行える自動の大型アルマイト処理ラインを導入。一度に大量処理を行うために、最新の電源装置および冷却装置を採用し、処理時間も従来より速めた。

また、すでに本社工場で行っているコンピュータ利用の生産管理システムを、新工場に導入する。新工場稼働に備え従業員10人を新規採用する計画で、初期運用時は30人ほどを定員と見込んでいる。工場の稼働状況も

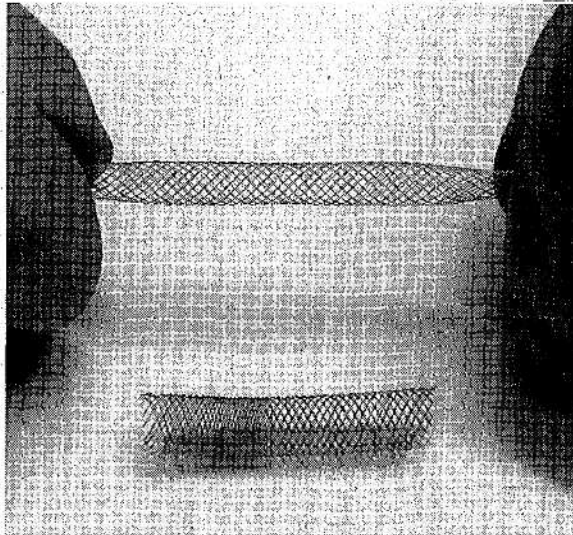
年程度で、1ラインの追加増設を予定する。宮田アルマイト工業は、アルマイトに加え三価クロムなどの化成処理が主力。

3月15日・金曜日 2019年（平成31年）

ステントにプラチナメッキ

中山貴金属 位置の視認性向上

【浜松】中山貴金属鍍金（浜松市北区、中山昌宏社長、053・401・1940）は、脳梗塞などのカテーテル治療で血管を内部から広げるために使うステントに、プラチナメッキを施す新技術を開発した。プラチナは放射線下で視認できるX線造影性があり、医師によるステント位置の視認性が高まる。すでに動物実験で性能を確認し、3～5年後の実用化を目指す。



ステントはカテーテルでどの位置に置くかで広げた血管が閉じないように、内部から広げる医療器具。現在はチタンとニッケルの形状記憶合金を素材とする筒状の網目タイプが主流。しかし、チタン・ニッケル合金はX線造影性が低く、ステ

カテーテル治療で血管を内部から広げるために使うステントにプラチナメッキを施しX線造影性を向上

に必要な厚さ10μm（マイクロは100万分の1）以上を伸縮性のあるステントにメッキするとひび割れ（クラック）が発生し、難しかった。

同技術は福島県の医療機器ベンチャーであるアイオールメディカル工房（福島県郡山市）が特許技術を持つステントに、プラチナメッキを施し動物埋没実験で性能を確認した。18日に東京・有明の東京ビッグサイトで開幕する医療関連の展示会「メドテック・ジャパン2019」で初公開する。

新技術は静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センターと共同開発した。同社は厚さ10μm以上でもクラックなしでメッキできる技術を持つ。さらに、プラチナの濃度や配分などの組成調整、電解液の温度や電気量といった条件を最適化することで、厚く追従性に優れるプラチナメッキに成功した。プラチナメッキは、X線造影ではつきりと確認でき、治療や術後の診断の精度向上につながる。

3月19日・火曜日 2019年（平成31年）



宝泉プレ、メッキ新工場

群馬・板倉町 次世代車の需要深耕

【前橋】宝泉プレシジョン（群馬県太田市、神保益夫社長、0276・31・2904）は、群馬県板倉町にメッキ処理の新工場を稼働した。新規顧客の開拓を推進するほか、電気自動車（EV）をはじめとする自動車部品の需要増に対応するのが狙い。総投資額は約9億円。処理能力の増強によって、3年後をめどに売上高を2018年6月期比30%程度引き上げる考え。

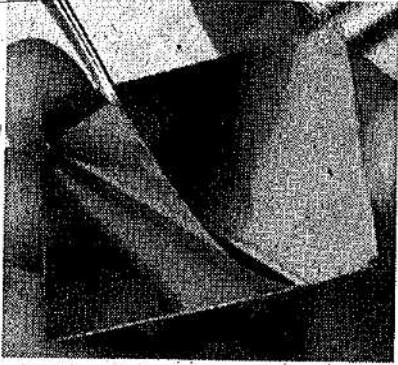
新工場は敷地面積約8500平方メートルで、延べ床面積は2400平方メートル。宝泉プレシジョンが群馬県板倉町に建設した新工場

方。亜鉛とニッケル事業継続計画（BCP）に基づきリスク対策の拠点として活用する。手狭になってきた既存の新田工場（群馬県太田市）を補完するほか、新規顧客の開拓や工場内には、コンピュータ制御で加工を

自動化できる最新設備を導入。熟練技能を置き換え、処理速度や品質の向上に役立てる。県境に近い地域への立地をいかし、従来の群馬県や埼玉県を中心とする営業エリアに加えて、茨城県や栃木県といった周辺地域の顧客を開拓する。EVやハイブリッド車（HV）、燃料電池車（FCV）で使うモーターや周辺部品など、今後の拡大が見込める次世代自動車分野のニーズを取り込んでいく。

同社は亜鉛系合金メッキにより耐食性や電気伝導性、耐摩耗性といった機能を高める処理技術を保有している。のほか、航空機産業、電機産業向けにも供給している。

2019年（平成31年）3月25日・月曜日



産業技術総合研究所
再生可能エネルギー研
究センターの遠藤成輝

電解メッキで薄膜製造

水素精製
向け 産総研など新技術

主任研究員と山王は、電解メッキで水素精製用薄膜を製造する技術を開発した。膜厚20ミクロン（マイクロは100万分の1）以下の均質なパラジウム銅合金を成膜できる（写真）。山王は2021年をめどに合金膜、22年に水

素精製装置の販売を目指す。

市販のメッキ装置でステンレス基板の上にパラジウム銅合金をメッキする。成膜後にパラジウム銅合金を剥離して回収する。圧延で製造する合金膜に比べて延びが1・7倍、膜が破れる荷重は3倍に向上した。パラジウム銅膜は水素が膜中を原子拡散する現象を利用

して気体を分けるため、1工程で純粋な水素が得られる。

産総研の「被災地企業のシーズ支援プログラム」で開発した。

4月2日・火曜日 2019年（平成31年）

抗菌メッキ技術の許諾権

神鋼、高秋化学に供与

神戸製鋼所は独自開発の抗菌メッキ技術「ケニフライン」の特許実施権を持つメッキ加工業者の高秋化学（新潟県燕市）に、特許の再実施を第三者に許諾（サブライセンス）する権利を供与する。一部のメッキ工法を除き、4月から許諾権の行使を認める。高秋化学が同技術の実施権を2002年に自ら取得して以降、蓄えた知識を第三者に広げる

ことで、技術の普及に弾みが付くと期待した。同技術に関するサブライセンスの権利付与は初めて。ケニフラインは神戸

製鋼が01年に開発したニッケル系合金メッキ技術。抗菌塗装や抗菌ステンレスなどの抗菌技術・製品に比べ、滅菌のスピードが10倍以

上と速く、滅菌後の菌の増殖を抑える効果もある。カビの生育を抑える働きでも、銀系抗菌剤の50倍の効果があらという。食品や医療関連製品、家電、台所用品などに広く使われており、特許実施権の許諾先は、高秋化学を含めて14社に上る。

